

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
90250	民族芸術学特論	2単位 後期 (集中)	1・2	講義	石岡 良治 (非)

■テーマ

民族学・人類学の観点から、諸芸術の可能性を理解する。

■授業の概要

民族学・人類学的知見の蓄積により、人類の文化的営みにおいて「イメージ」が果たす役割の重要性が広く知られるようになってきている。造形芸術はイメージ制作 (imagemaking) の観点から捉え直され、ヨーロッパや東アジアなどを対象とした「美術史」についても新たな光が投げかけられている。前近代における「民衆芸術」への関心や近現代におけるポピュラー文化への関心が芸術学における重要な問いを構成するようになったのも、こうした文脈から理解することができるだろう。本講義はそうした状況を捉えるために現代の様々な理論を概観した上で、「キッチュ」「マンガ」「絵馬」といった多様な対象に取り組んだ日本の美術批評家、石子順造の活動に注目する。最晩年に「丸石神」への関心に至った石子順造の歩みを批評的に再検証しつつ、人類学的関心をみせるいくつかのマンガ作品を読解することで、人類と「芸術」の関わりについてより身近な場面で考えていくきっかけとしたい。

■到達目標

民族誌・人類学やポピュラー文化などを通じた「イメージ」の役割の広がりについて学び、人類と「芸術」の関わりについて各自の関心と結びつけて理解を深める。

■授業計画・方法

1. イントロダクション：イメージと人類
2. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義 (1) アロイス・リーグル
3. ドイツ・オーストリア芸術学の現代的意義 (2) ウィルヘルム・ヴォリンガー
4. ジル・ドゥルーズの芸術学と現在のイメージ人類学
5. 「オブジェクト」への思弁的関心とデザイン
6. 装飾をめぐる (1) 造形の「エッジ」
7. 装飾をめぐる (2) パターンが生み出す「テリトリー」
8. 石子順造の仕事 (1) 先史的なものや俗悪なもの
9. 石子順造の仕事 (2) 「マンガ」において賭けられていたもの
10. 民衆芸術と消費文化
11. 諸星大二郎と人類学的関心 (1) 漢字文化圏を掘り下げる
12. 諸星大二郎と人類学的関心 (2) 『マッドメン』と神話の構造分析
13. 人類の暴力と投擲：『寄生獣』とは誰か
14. 現代日本の創作における人類学的想像力：上橋菜穂子と都留泰作
15. まとめ：文化の無底性に向き合うこと

定期試験は実施しない

※ 概ね以上のような内容で授業を進行させるが、受講生の反応に応じて変更する場合もある

■履修上の留意点 (授業以外の学習方法を含む)

以下に挙げる「参考文献 (作品)」のいくつかに予め触れておくことが望ましい。その上で講義をふまえ、レポート課題に取り組んでほしい。

■成績評価の方法・基準

【方法】 平常点+コメントペーパー40% レポート60%

【基準】 到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

芸術文化学研究所 (博士課程) の学生には、専門家としての独創的かつ学術的な達成を求める。

■教科書・参考文献 (資料) 等

□教科書 なし、ただし参考文献・作品のいずれかに触れておくこと

□テキスト なし

□参考文献 石岡良治『「超」批評 視覚文化×マンガ』青土社

ウィルヘルム・ヴォリンガー (中野勇訳) 『ゴシック美術形式論』文春学芸ライブラリーの石岡良治による解題

石子順造『キッチュ/マンガ』小学館クリエイティブ

諸星大二郎『妖怪ハンター』『暗黒神話』『マッドメン』

岩明均『寄生獣』『七夕の国』『ヒストリエ』

都留泰作『ナチュン』『ムシヌユン』

上橋菜穂子『精霊の守り人』